仙台市文化財調査報告書第354集

仙台城跡
登城路第2次調査

－平成21年度　調査報告書－

2009年9月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第 354 集

仙台城跡
登城路第２次調査

－平成 21 年度　調査報告書－

2009 年 9 月

仙台市教育委員会

序　　文

慶長５年（1600）、初代藩主伊達政宗が仙台城の縄張り始めを行い、城下に仙台の町づくりを行ってから四百年余りが過ぎ、仙台市は人口100万人を越える東北地方の中心都市となりました。市の中心部が近代的なビルの林立する都市化の波にさらされていく中にあって、仙台城跡は青葉城や天守台といった愛称で、市街地から最も近い緑豊かな場所として市民から親しまれてきました。

遺跡としての仙台城跡は昭和58年以降発掘調査が行われ、平成９年度から15年度まで行われた本丸跡石垣修復工事に伴う発掘調査や平成13年度から始められた総合的な学術調査によって中世の山城であった千代城、そして伊達氏の居城としての全容が次第に明らかになってきました。これらの発掘で新たに判明した複数の時期に渡る本丸石垣構築の変遷や、金箔瓦・欧州産ガラス器・中国産陶磁器等の貴重な出土品等から、仙台城跡は平成15年８月、我が国の近世を代表する城郭遺跡であることが評価され、国の史跡に指定されました。これを契機として、仙台城跡の保存管理及び整備の基本的な方針を内容とする仙台城跡整備基本構想の策定がなされる等、仙台城跡の様々な魅力を引き出すための取り組みが始まっております。

一方、仙台城跡を市民の憩いの場所とすることを目的として始まった青葉山公園整備事業も行われております。これまで本丸、時の太鼓跡から沢門跡まで区間の園路整備工事に伴い、平成17年度に遺構確認調査を第１次調査として実施してまいりました。今年度はその継続事業として、沢門跡より大手門跡の区間を第２次として調査することができました。その成果は、今後の登城路の解明に役立つことが期待されます。

今回の調査事業及び調査報告書の刊行にあたり、多くの方々からのご指導、ご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げますとともに、本報告書が研究者のみならず、市民の皆様に広く活用され、文化財保護の一助となれば幸いです。

平成21年９月

仙台市教育委員会

教育長　荒井　崇

例　　言

1．本書は平成21年度仙台城跡登城路第２次発掘調査の報告書である。

2．発掘調査は、株式会社シン技術コンサルが仙台市教育委員会の委託を受け、仙台市教育委員会の指導監督のもとに行った。

3．調査及び本書の作成・編集にあたっては、仙台市教育委員会文化財課仙台城史跡調査室 佐藤洋・佐藤淳、株式会社シン技術コンサル 福井流星が行った。

4．報告書の作成は佐藤洋の責任・指導のもとに次のとおり分担した。

本文執筆　　佐藤　洋（Ⅰ章）

　　福井流星（Ⅱ～Ⅳ章）

編集は佐藤・福井がこれにあたった。

5．出土した陶磁器の鑑定は佐藤洋が行った。

6．本書で使用した地形図は、国土地理院発行の１：50,000「仙台」の一部を使用している。

7．遺構図の平面位置図は平面直角座標第Ｘ系（日本測地系）を用いており、文中で記した方位角は真北を基準とし、高さは標高値で記した。

8．遺構略号は、全遺構にＳ-を付した。遺構番号は、登城路第１次調査からの通し番号を用い、1430より使用した。

9．本報告書の土色については、『新版標準土色帖』（古山・佐藤：1970）を使用した。

10．調査及び報告書作成に関する諸記録、出土遺物などの資料は仙台市教育委員会が保管している。

目　　次

序　文

例　言

Ⅰ　はじめに …… 1

Ⅱ　仙台城跡の概要 …… 3

Ⅲ　調査の成果 …… 5

　１．１トレンチ …… 5

　２．２トレンチ …… 5

　３．３Ａ・Ｂトレンチ …… 6

　４．４トレンチ …… 9

　５．５Ａトレンチ …… 11

　６．５Ｂトレンチ …… 12

Ⅳ　まとめ …… 14

写真図版 …… 15

Ⅰ　はじめに

1．調査に至る経緯

青葉山丘陵とその周辺では、仙台城跡を含む一帯が青葉山公園として整備事業が進められている。城内の登城路地区では、平成17年度に第1次調査として市道仙台城跡線の沢門跡より時の太鼓跡付近までを対象に、園路整備に伴い遺構確認調査及び土塁測量を実施した。

今年度は、再び園路整備とそれに伴う照明灯設置・ケーブル埋設計画に先立ち、沢門跡より大手門跡の区間で遺構確認調査をする必要が生じた。仙台市教育委員会と仙台市建設局青葉山公園整備室との協議により、平成21年5月18日より遺構確認を目的として第2次調査を実施することにした。

2．調査要項

（1）　遺跡名称　　仙台城跡（宮城県遺跡地名登載番号01033　仙台市文化財登録番号C-501）

（2）　調 査 地　　仙台市青葉区川内無番地

（3）　調査主体　　仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課仙台城史跡調査室）

（4）　調査体制　　文化財課　　課　長　　田中　則和

仙台城史跡調査室長　　工藤　哲司

主　査　　佐藤　　洋

主　任　　佐藤　　淳

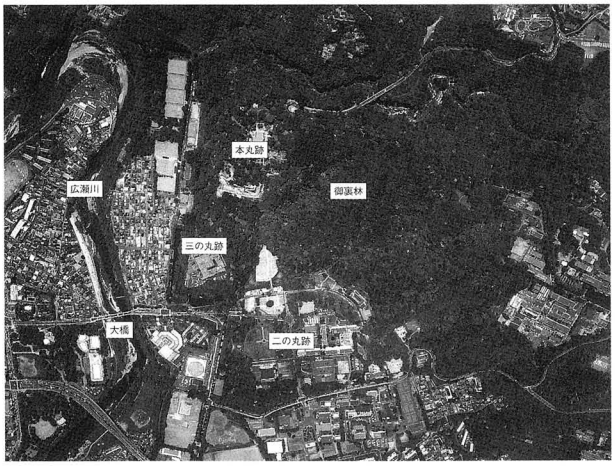
株式会社シン技術コンサル

調査員　　福井　流星

計測員　　小山内良一

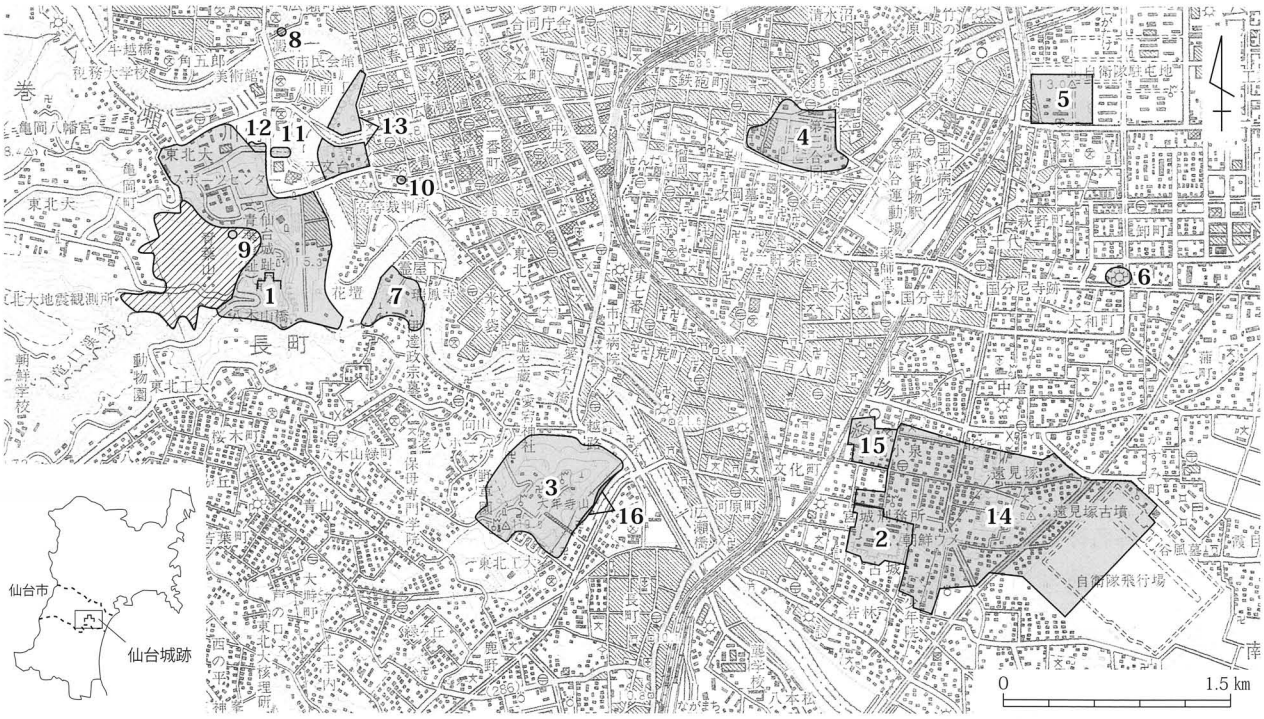
（5）　調査期間　　平成21年5月18日～平成21年6月19日

（6）　調査面積　　25㎡



仙台城跡航空写真（北方上空より2000年撮影）

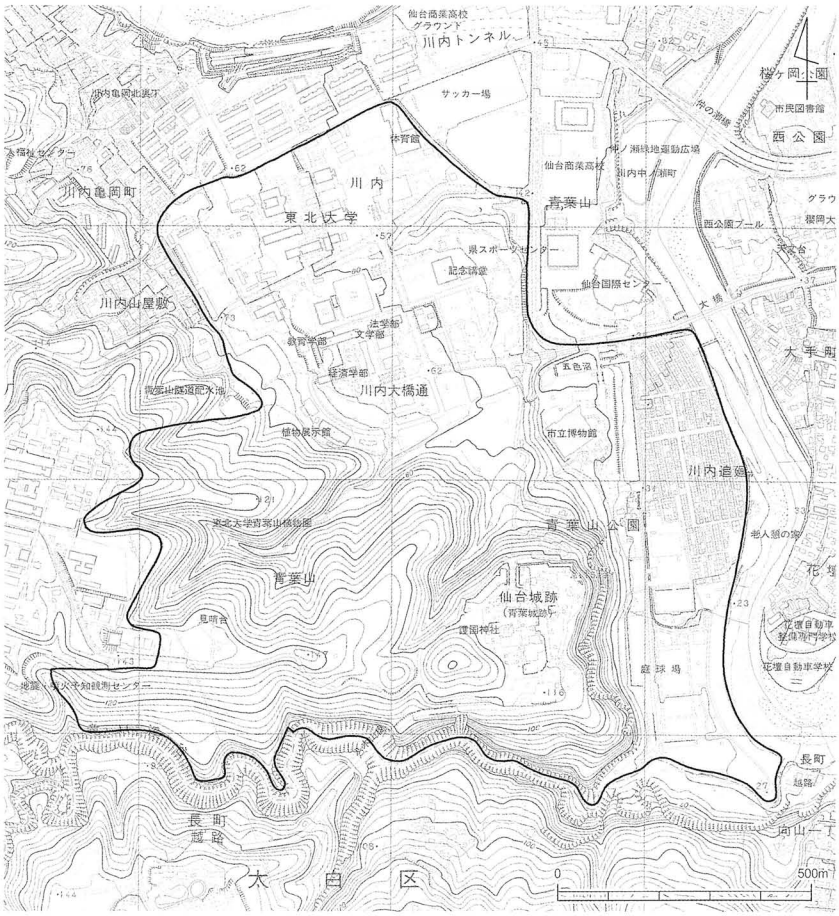
調査区遠景（北より）



第１図　仙台城跡と周辺の遺跡

第１表　周辺遺跡一覧表

城館跡		4	国分鞭館跡	8	澱不動尊文永十年板碑	12	川内Ｂ遺跡
1	仙台城跡	5	南目城跡	9	川内古碑群	13	桜ヶ岡公園遺跡
	天然記念物青葉山（斜線部分）	6	谷地館跡	10	片平仙台大神宮の板碑	14	南小泉遺跡
2	若林城跡	7	経ヶ峯伊達家墓所	**その他の中・近世の主な遺跡**		15	養種園遺跡
3	茂ヶ崎城跡	**板碑・石碑**		11	川内Ａ遺跡	16	杉土手（鹿除土手）



第２図　仙台城跡（現況地形図と遺跡範囲 1/15,000）

Ⅱ　仙台城跡の概要

１．仙台城跡の地理的環境と現況

仙台城跡は仙台市街地の西方に位置し、西を青葉山丘陵、北と東を広瀬川、南を竜ノ口渓谷に囲まれた広瀬川中流域の河岸段丘面に立地する。本丸は丘陵上の平場（標高 115 ～ 117 m）に位置し、規模は東西 245 m、南北 267 mで南側を竜ノ口渓谷、東側は広瀬川に落ちる高さ約 70 mの断崖に守られ、比較的傾斜が緩い北側には高さ約 17 mの石垣が築かれている。西側は御裏林と呼ばれた森林が広がり、築城以来、本丸背後の防衛と水源涵養のため一般人の立入りや樹木の伐採が厳しく規制された。明治以降は陸軍第二師団の管理下、戦後は進駐軍用地となったが立入りは制限されたため、現在も貴重な自然が残る。昭和 47 年（1972）には国指定天然記念物「青葉山」の指定を、平成 15 年（2003）には天然記念物指定区域が国史跡「仙台城跡」の一部として指定を受けている。

本丸跡の麓の河岸段丘には二の丸跡と三の丸跡がそれぞれ仙台上町段丘面、仙台下町段丘面に立地している。二の丸跡は広瀬川に合流する二本の沢に挟まれ、御裏林を背にした場所に位置し、現在は大部分が東北大学川内キャンパスとして利用されている。二の丸跡東側に位置する大手門跡付近には高さ約９mの石垣が残り、その南側には大手門脇櫓が復元されている。三の丸跡は水堀と土塁に囲まれ、子の門跡の両脇には石垣が残存している。

２．仙台城跡の歴史的背景

仙台城は初代藩主伊達政宗により、関ヶ原の戦い直後の慶長５年（1600）12 月 24 日に縄張りが開始され、翌年１月から普請に着手、慶長７年（1602）５月に一応の完成をみたとされる。築城当初は「山城」である本丸を中心とする城郭であったが、政宗の死後、二代藩主忠宗が山麓部に二の丸を造営し、寛永年間以降は二の丸が藩政の中心となり、三の丸・重臣武家屋敷などが一体となって城域が形成された。

絵図や文献によれば、本丸には詰門の東側に天皇家や将軍家を迎える御成門があり、中央には華麗な障壁画や欄間彫刻に彩られた大広間を中心とする御殿建物群が存在し、能舞台・書院などが上方から招いた当代一流の大工棟梁・工匠・画工によって造られ、桃山文化の集大成といえる建物群が威容を誇っていたと考えられている。

本丸の建物群は江戸時代の災害や、明治維新後の取り壊しで失われ、二の丸御殿群も明治 15 年（1882）の大火で焼失した。唯一、仙台城の面影を伝えていた国宝の大手門及び脇櫓も昭和 20 年（1945）７月、太平洋戦争による米軍の空襲で焼失した。現在では、本丸北壁の石垣、三の丸を囲む堀と土塁などが往時の仙台城を偲ぶ貴重な遺構となっている。なお、青葉山には伊達氏により仙台城が築城される以前にこの地を治めていた国分氏の居城「千代城」に関する 16 世紀代の文献記録が残っており、中世山城が存在していた可能性が指摘されている。

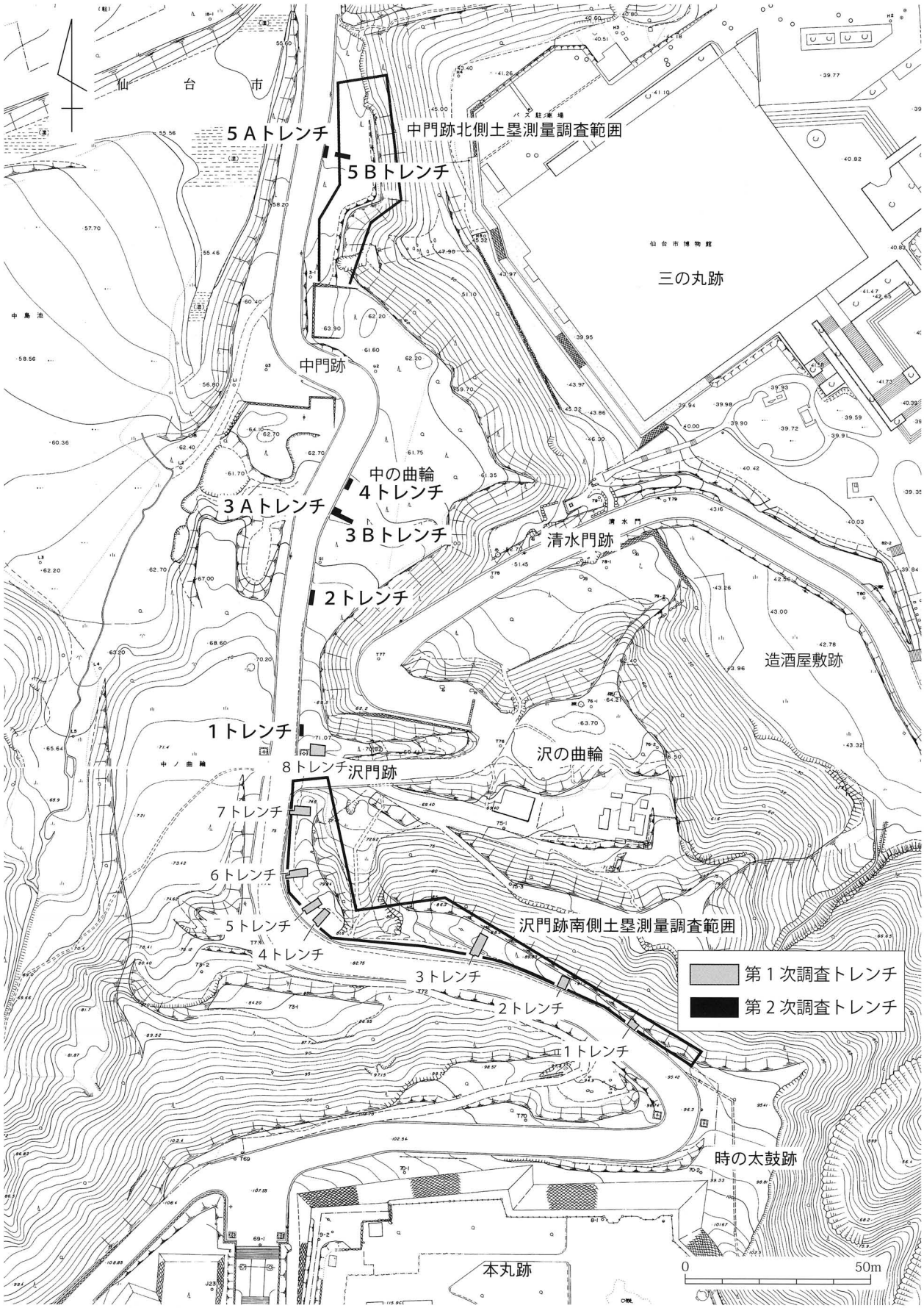
本丸に至る登城路は、巽門跡から清水門跡・沢門跡を通る経路と、大手門跡・中門跡を通る経路がある。巽門跡を通る経路は、築城当初に造られ、複雑な屈曲があり、途中には石垣や土塁が設けられ、防御性の高いものであった。大手門を通る経路は慶長後期から寛永期に造られたと考えられており、現在は市道仙台城跡線として多くの車両が行きかっている。

３．仙台城跡の発掘調査

仙台城跡の調査には、昭和 58 年度（1983）から継続的に実施されている東北大学構内の施設整備に伴う二の丸跡の発掘調査、昭和 58・59 年度（1983・1984）に実施された仙台市博物館の新築工事に伴う三の丸跡の発掘調査、平成 18 年度（2006）に実施された三の丸巽門跡周辺の遺構確認調査、平成 19・20 年度（2007・2008）に青葉山公園整備に伴い実施された追廻地区の遺構確認調査などがある。本丸跡では平成９年度（1997）から平成 15 年度（2004）にかけて石垣修復工事に伴う発掘調査が行われ、現存の石垣（Ⅲ期石垣）背面より二時期にわたる旧石垣（Ⅰ期・Ⅱ期石垣）が検出され、石垣基部の調査や断面構造の記録化により、Ⅰ期からⅢ期までの石垣の変遷や構造などが明らかとなった。

登城路は平成 17 年度（2005）に園路整備に先立ち、沢門跡から時の太鼓跡付近までの遊歩道で遺構確認を目

的とした調査と中門跡北側土塁と沢門跡南側土塁の現況測量が行われ、登城路の基盤整備に伴う造成土や登城路の路面整備状態を示す石敷き遺構、沢門跡に取付く塀の布掘り溝などが検出されている。



第3図　仙台城登城路周辺の地形と調査地点位置図（1/1,500）

Ⅲ　調査の成果

各調査区が離れているため、基本層序は隣接する３Ａ・３Ｂトレンチを除き、調査区ごとに記載する。

１．１トレンチ（第３・４図、図版１・２）

沢門跡から北西約５m、標高約 70.3 ～ 70.6m に位置する遊歩道に１×３m のトレンチを設定した。調査区全面に広がる盛土層が２層堆積するが、遺物が出土しなかったため、時期は特定できなかった。下層の堆積状況を把握するため、南側の盛土層を掘り下げた結果、地表から約 60cm の地点で地山層を検出した。各層上面で遺構検出を行なったが、遺構は検出されなかった。

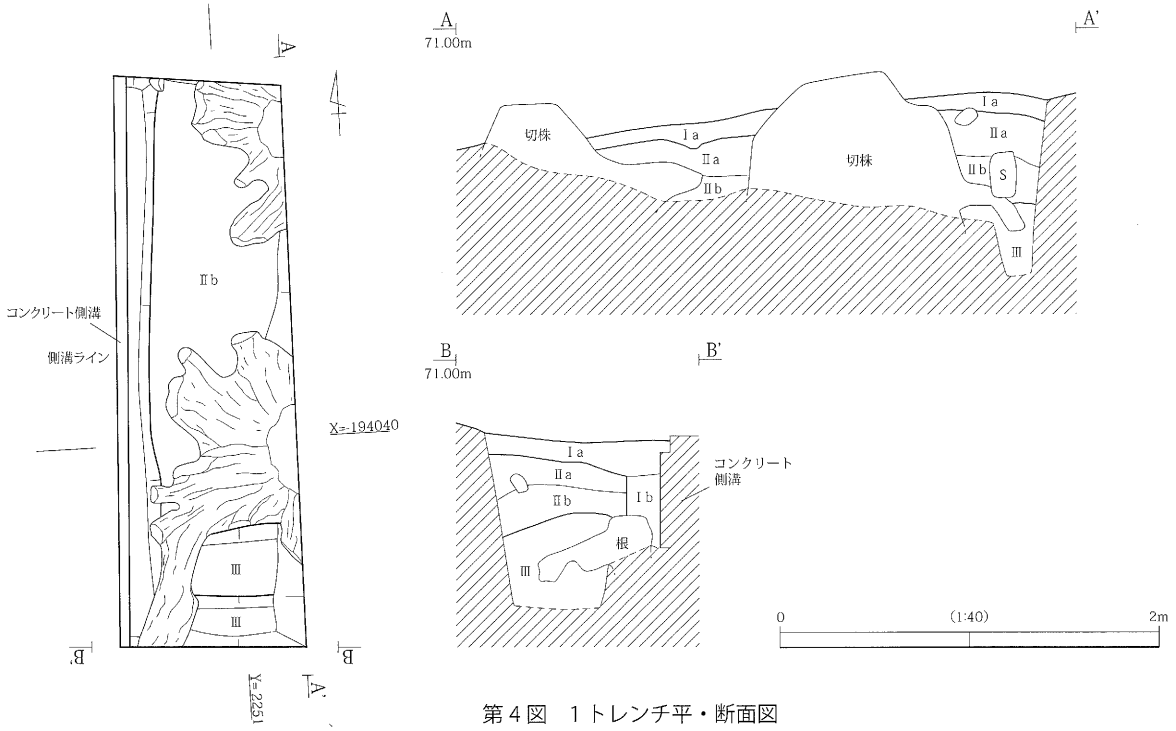
（１）基本層序

基本層はⅠ層（表土）、Ⅱ層（盛土層）、Ⅲ層（地山層）に大別された。Ⅱ層は２層に細分され、Ⅱａ層はにぶい黄褐色砂質シルトが主体、Ⅱｂ層は黄褐色シルトが主体である。遺物は出土しなかった。Ⅲ層は深掘りを行った調査区南側で、地表面から約 60cm の地点で検出した。明黄褐色粘土質シルトが主体で層厚は 50cm 以上である。

（２）遺構と遺物

遺構　検出されなかった。

出土遺物　Ⅰ層：瓦片５点、磁器片２点。



第４図　１トレンチ平・断面図

第２表　１トレンチ土層注記表

遺構	層位	土色		土質	土性		備考
		土色№	土色		粘性	しまり	
	Ⅰa	10YR3/1	黒褐色	シルト	なし	なし	表土。
	Ⅰb	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	なし	側溝掘り方埋土。径3cm以下の黄褐色土粒を多量、底面に礫を多量含む。
	Ⅱa	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	盛土層。径5cm以下の礫を少量、径5mm以下の黒褐色土粒を微量含む。
	Ⅱb	10YR5/6	黄褐色	シルト	ややなし	あり	盛土層。径3cm以下の風化礫を少量含む。
	Ⅲ	10YR7/6	明黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	地山層。径5mm以下の風化礫を少量含む。

２．２トレンチ（第３・５図、図版３・４）

沢門跡と中門跡の中間、標高 65.9 ～ 66.3m に位置する遊歩道に１×４m のトレンチを設定した。調査区北側では整地層の可能性がある盛土層が堆積し、中央から南側では円礫・風化礫を多く含んだ盛土層が堆積する。遺物が出土しなかったため、時期は特定できなかった。盛土層上面で遺構検出を行なったが、遺構は検出されなかった。下層の堆積状況を把握するため、南側の盛土層を地表面より約 100cm 掘り下げたが、地山層は確認できなかった。

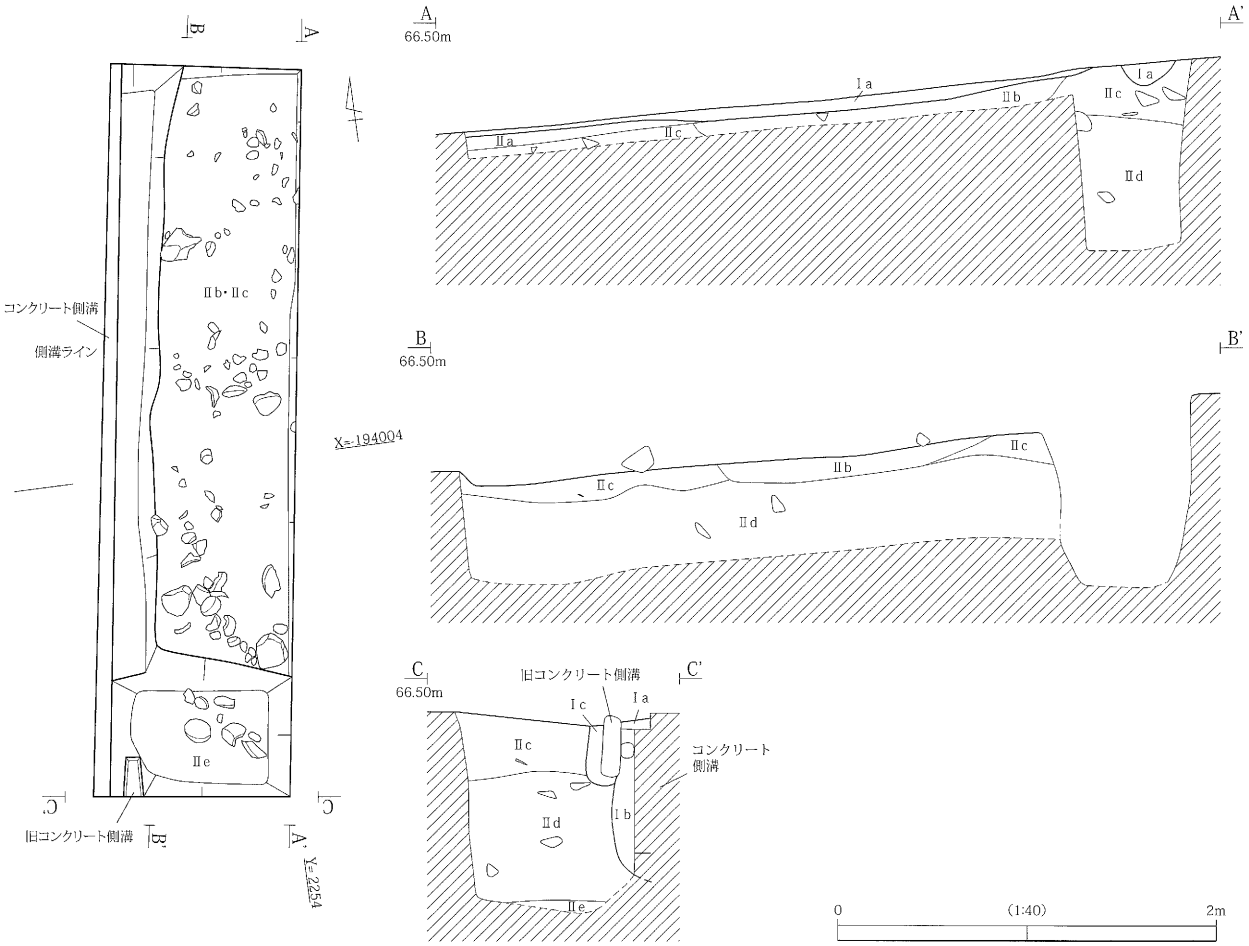
（1）基本層序

基本層はⅠ層(表土)、Ⅱ層(盛土層)に大別された。Ⅱ層は５層に細分された。Ⅱａ層は調査区北側にのみ堆積し、にぶい黄褐色シルトが主体で含有物はあまり含まない。Ⅱｂ～Ⅱｅ層は黄褐色砂質シルト・にぶい黄褐色粗砂が主体で円礫・風化礫を多く含む。いずれの層からも遺物が出土しなかったため、時期は特定できなかった。

（2）遺構と遺物

遺構　検出されなかった。

出土遺物　Ⅰ層：瓦片３点、磁器片１点。



第５図　２トレンチ平・断面図

第３表　２トレンチ土層注記表

遺構	層位	土色		土質	土性		備考
		土色No.	土色		粘性	しまり	
	Ⅰa	10YR3/1	黒褐色	シルト	ややなし	あり	表土。径5cm以下の礫をやや多量、径5mm以下の黄褐色土粒を少量含む。
	Ⅰb	10YR3/2	黒褐色	粗砂	なし	なし	側溝掘り方埋土。径5cm以下の風化礫、径5mm以下の黄褐色土粒を多量、底面に礫を多量含む。
	Ⅰc	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	なし	旧側溝掘り方埋土。径5cm以下の風化礫、径1cm以下の黒褐色土粒を少量含む。
	Ⅱa	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	盛土層。径1cm以下の黒褐色土粒を微量含む。
	Ⅱb	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	盛土層。径10cm以下の円礫、径5cm以下の風化礫を多量、径1cm以下の黒褐色土粒を微量含む。
	Ⅱc	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	盛土層。径5cm以下の円礫・風化礫を多量含む。Ⅱb層より色調やや明。
	Ⅱd	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗砂	なし	あり	盛土層。径5cm以下の風化礫を極多量含む。
	Ⅱe	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	あり	なし	盛土層。径5cm以下の風化礫を多量、径10cm以下の円礫をやや多量含む。

３．３Ａ・Ｂトレンチ（第３・６～８図、図版５～９・17）

中門跡から南へ約 17m、標高 62.85 ～ 63.55m の遊歩道に位置する。通路を確保するため、３Ａトレンチから調査を着手し、調査及び埋め戻し終了後、３Ｂトレンチの調査を行った。３Ｂトレンチ調査時には溝状遺構(S-1434)の範囲確認のため、３Ａトレンチ南東隅を 0.5 × 1 m の範囲で再度開け直した。

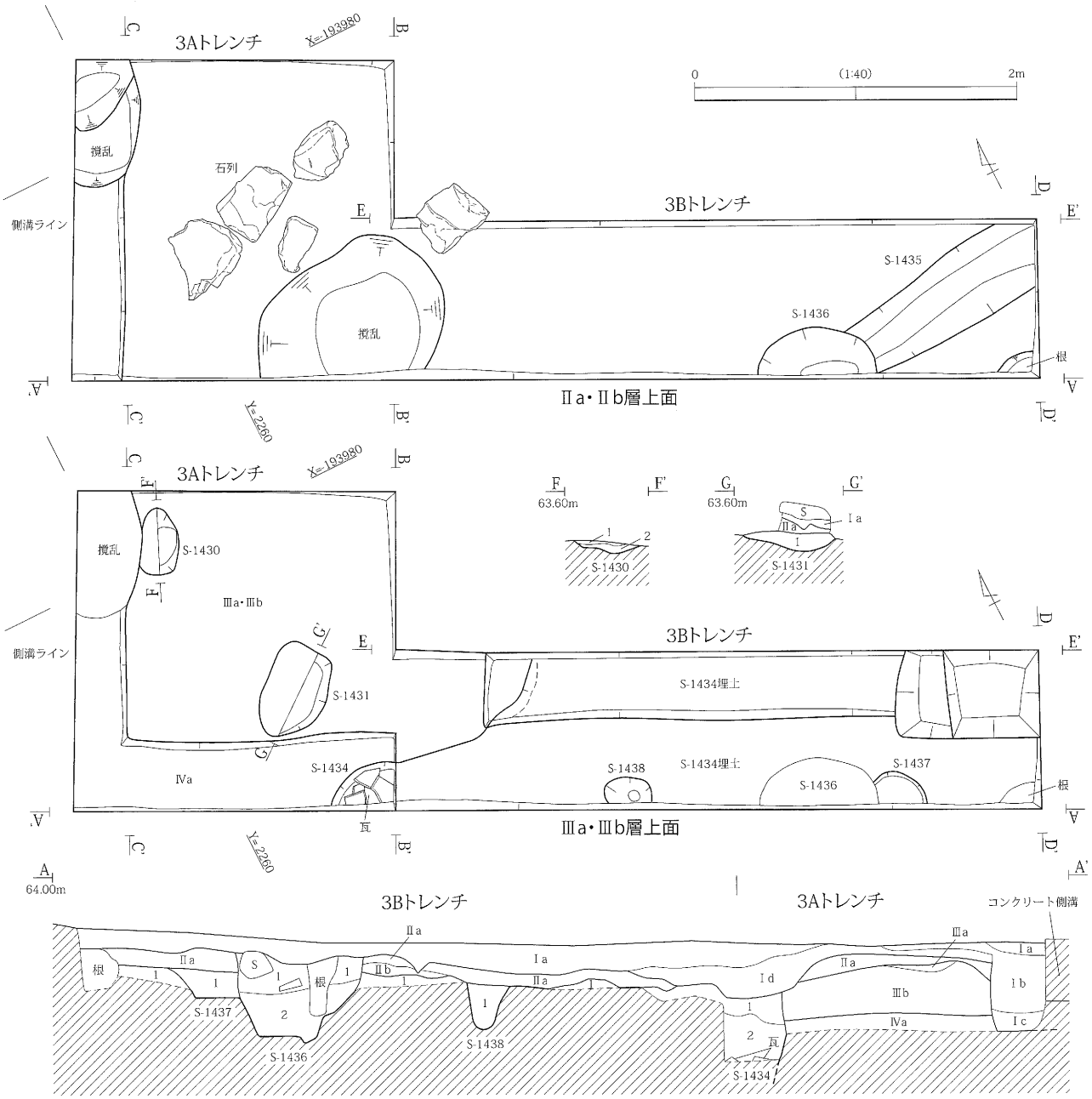
３Ａトレンチは２×２m のトレンチを設定した。調査区中央には、石組側溝または石垣などに用いたと想定さ

れる石材が４個露出していたが、Ⅱ層上面で石材に伴う遺構は検出できなかったため、この石列は後世に配置された新しいものと考えられる。調査区全面で近代の盛土層、近世の整地層が堆積していた。整地層上面で遺構検出を行った結果、ピット２基（S-1430・1431）、撹乱下で３Ｂトレンチへ延びる溝状遺構１条（S-1434）を検出した。

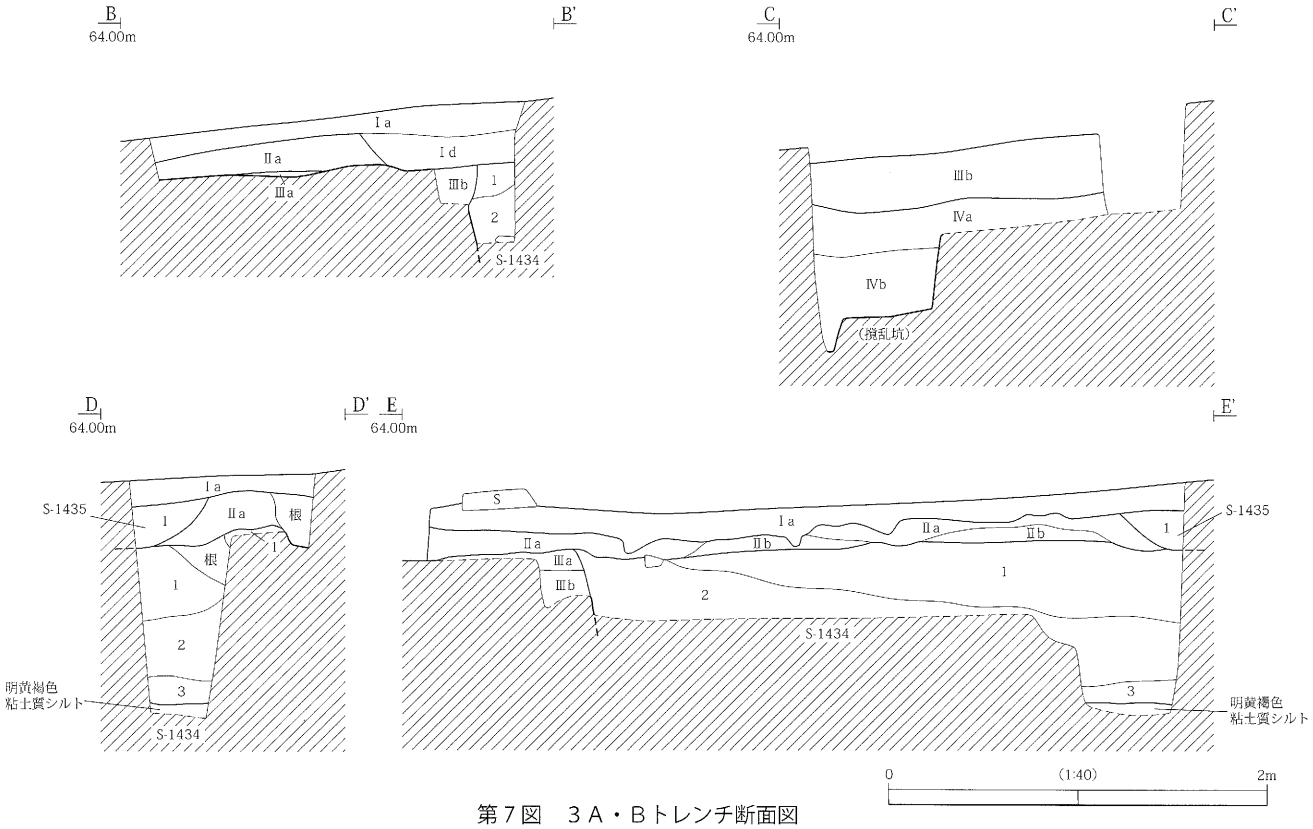
３Ｂトレンチは３Ａトレンチの東側に１×４ｍのトレンチを設定した。調査区全面で近代の盛土層、調査区北西隅で近世の整地層が堆積していた。近代の盛土層上面で溝跡１条（S-1435）、ピット１基（S-1436）を検出し、近世の整地層上面で溝状遺構１条（S-1434）、S-1434 埋土上面でピット２基（S-1437・1438）を検出した。

（１）基本層序

基本層はⅠ層（表土）、Ⅱ層（近代の盛土層）、Ⅲ層（近世の整地層）、Ⅳ層（地山層）に大別された。Ⅱ層は２層に細分された。Ⅱａ層は調査区全面で堆積しており、褐色シルトが主体である。遺物は瓦片、大砲点火具の摩擦管などが出土している。Ⅱｂ層は３Ｂトレンチで部分的に堆積しており、にぶい黄橙色シルトが主体で、灰白色土粒を多く含む。遺物は瓦片、鉛玉などが出土している。Ⅲ層は２層に細分された。Ⅲａ層は両トレンチで部分的に堆積しており、黄褐色粘土質シルトが主体で径 5mm 以下の風化礫を多く含む。Ⅳ層は２層に細分された。



第６図　３Ａ・Ｂトレンチ平・断面図



第７図　３Ａ・Ｂトレンチ断面図

第４表　３Ａ・Ｂトレンチ土層注記表

遺構	層位	土色		土質	土性		備考
		土色№	土色		粘性	しまり	
	Ⅰa	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	表土。径3cm以下の円礫を微量含む。
	Ⅰb	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径3cm以下の円礫をやや多量、径1cm以下の黒褐色土粒を微量含む。
	Ⅰc	10YR3/1	黒褐色	シルト	なし	なし	側溝掘り方埋土。径10cm以下の円礫を多量含む。
	Ⅰd	10YR3/2	黒褐色	シルト	ややあり	なし	旧表土。径1cm以下の黄褐色土粒を少量含む。ガラス混入。
	Ⅱa	10YR4/4	褐色	シルト	ややなし	ややなし	近代の盛土層。径3cm以下の黒褐色土粒をやや多量含む。摩擦管出土。
	Ⅱb	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	ややあり	ややなし	近代の盛土層。径2cm以下の灰白色土粒を多量含む。3Bトレンチで部分的に堆積。
	Ⅲa	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	近世の整地層。径5mm以下の風化礫を多量含む。Ⅲb層上面に部分的に堆積。
	Ⅲb	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	近世の整地層。径5cm以下の風化礫を少量含む。
	Ⅳa	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	地山層。径5mm以下の風化礫を微量含む。
	Ⅳb	10YR5/6	黄褐色	粘土	あり	あり	地山層。径5mm以下の灰白色粘土粒を多量含む。
S-1430	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	なし	ややあり	径5mm以下の風化礫を多量含む。瓦片出土。
	2	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径3mm以下の黒褐色土粒を微量含む。
S-1431	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径3cm以下の風化礫を多量含む。瓦片出土。
S-1434	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径1cm以下の風化礫を多量、径1cm以下の灰白色土粒をやや多量、径5mm以下の炭化物を少量含む。
	2	10YR7/2	にぶい黄橙色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径5mm以下の炭化物を少量含む。瓦片出土。
	3	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	なし	径3cm以下の風化礫を少量含む。
S-1435	1	10YR4/4	褐色	シルト	なし	なし	径1cm以下の黒褐色土粒を微量含む。
S-1436	1	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	なし	径1cm以下の灰白色土粒・径5mm以下の黒褐色土粒を微量含む。
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややなし	径5mm以下の風化礫・灰白色土粒を微量含む。コンクリート片混入。
S-1437	1	10YR5/6	黄褐色	シルト	なし	なし	径5cm以下の円礫を多量含む。
S-1438	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	ややあり	ややなし	径1cm以下の風化礫を少量含む。

（２）遺構と遺物

S-1430（ピット）　３Ａトレンチ北西側、Ⅲ層で検出した。規模は長軸 40cm、短軸 32cm で検出面からの深さは 8cm である。平面形状は楕円形で断面形状は皿状を呈する。埋土は２層に分層され、遺物は瓦片が２点出土した。

S-1431（ピット）　３Ａトレンチ中央東側、Ⅲ層上面で検出した。規模は長軸 58cm、短軸 38cm で検出面からの深さは 11cm である。平面形状は楕円形で断面形状は皿状を呈する。埋土は単層で遺物は瓦片が１点出土した。

S-1434（溝状遺構）　３Ａトレンチ南東隅及び３Ｂトレンチで検出した。S-1437・1438 に切られる。調査区外へ延びるため、全体の規模・形状は不明であるが、検出した範囲での規模は幅４ｍ以上、一部埋土を掘り下げた箇所では、深さ約 90cm の地点で底面の可能性がある明黄褐色粘土質シルト層を確認した。平面形状は「Ｓ」字状を呈し、南北方向に延びると想定される。Ⅲ層上面から掘り込まれており、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は瓦片が 62 点、金属製品が２点出土した。検出範囲が狭いため断定はできないが、規模・形状から溝跡の可能性が高い。

S-1435（溝跡）　３Ｂトレンチ東側、Ⅱ層上面で検出した。S-1436 に切られる。調査区外へ延びるため、全体の規

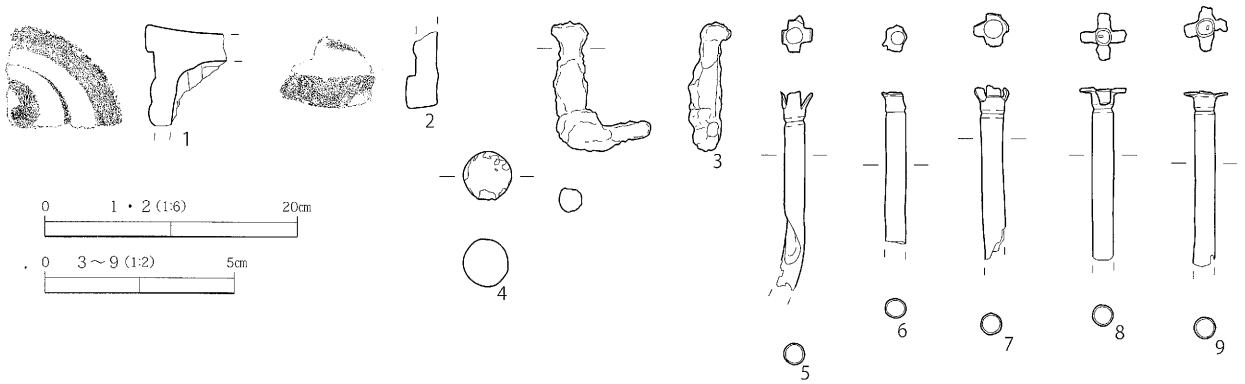
模・形状は不明である。主軸方位はN-80°-Eで、検出した範囲での規模は長さ125cm、幅35～47cm、検出面からの深さは10～20cmである。断面形状は皿状を呈する。埋土は単層で遺物は瓦片が1点出土した。

S-1436（ピット）　3Bトレンチ南側、Ⅱ層上面で検出した。S-1435・1437を切る。検出した範囲での規模は長軸74cm、短軸29cmで検出面からの深さは48cmである。推定される平面形状は楕円形で断面形状は逆台形を呈する。埋土は2層に分層され、遺物は瓦片が2点、コンクリート片が1点出土した。

S-1437（ピット）　3Bトレンチ南側、S-1434の1層上面で検出した。S-1436に切られ、S-1434を切る。検出した範囲での規模は長軸30cm、短軸20cmで検出した面からの深さは16cmである。推定される平面形状は円形で断面形状は逆台形を呈する。埋土は単層で径5cm以下の円礫を多く含む。遺物は出土しなかった。

S-1438（ピット）　3Bトレンチ南側、S-1434埋土上面で検出した。S-1434を切る。検出した範囲での規模は長軸29cm、短軸16cm、検出面からの深さは28cmである。推定される平面形状は楕円形で断面形状は「U」字状を呈する。埋土は単層で遺物は出土しなかった。

出土遺物　Ⅰ層：瓦片21点、金属製品19点、陶器片1点、磁器片1点、Ⅱ層：瓦片58点、陶器片1点。



第8図　3A・Bトレンチ出土遺物

第5表　3A・Bトレンチ出土遺物観察表

図版番号	種類	登録番号	遺物番号	文様	出土地点		法量(cm・g)				備考	写真図版
					遺構名	層位	長さ	幅	厚さ	重量		
第8図-1	軒丸瓦	F-2	194	三巴文	S-1434	1	(6.2)	(8.9)	2.1	(430.1)	左巻。内面ナデ、瓦当面離れ砂有り。	図版17-1
第8図-2	軒丸瓦	F-1	187	三巴文	S-1434	1	-	(8.6)	2.4	(108.8)	左巻。瓦当面離れ砂有り。	図版17-2
第8図-3	釘	N-5	197	-	S-1434	1	3.4	0.6	0.6	4.5	胴部折れ曲がる。	図版17-3
第8図-4	鉛玉	N-4	158	-	-	Ⅱ	1.3	1.3	1.2	10.4	三匁。白銹化顕著。	図版17-4

図版番号	種類	登録番号	遺物番号	出土地点		法量(mm・g)					備考	写真図版
				遺構名	層位	長さ	幅	厚さ	羽根部幅	重量		
第8図-5	摩擦管	N-1	10	-	Ⅱ	(53)	6	0.5	8	(1.3)		図版17-5
第8図-6	摩擦管	N-2	11	-	Ⅱ	(40)	6	0.5	(7)	(2.0)		図版17-6
第8図-7	摩擦管	N-6	206	-	撹乱	(46)	6	0.5	9	(1.4)		図版17-7
第8図-8	摩擦管	N-19	206	-	撹乱	(46)	6	0.5	12	(2.7)		図版17-8
第8図-9	摩擦管	N-20	206	-	撹乱	(46)	6	0.5	12	(1.6)		図版17-9

4.4トレンチ（第3・9・10図、図版10・11・17）

中門跡から南へ約13m、標高62.7～63mに位置する遊歩道に1×3mのトレンチを設定した。調査区北東には平場があり、明治4年から昭和4年まで正午を知らせるための午砲を撃つ号砲所が置かれていた。調査区全面で近代以降の盛土層が堆積し、上面でピット1基（S-1432）、盛土層下で溝状遺構1条（S-1433）を検出した。

（1）基本層序

基本層はⅠ層（表土）、Ⅱ層（近代の盛土層）、Ⅲ層（地山層）に大別された。Ⅱ層は2層に細分され、遺物は金属製品が出土した。Ⅲ層は調査区西側中央部の側溝底面でのみ検出された。

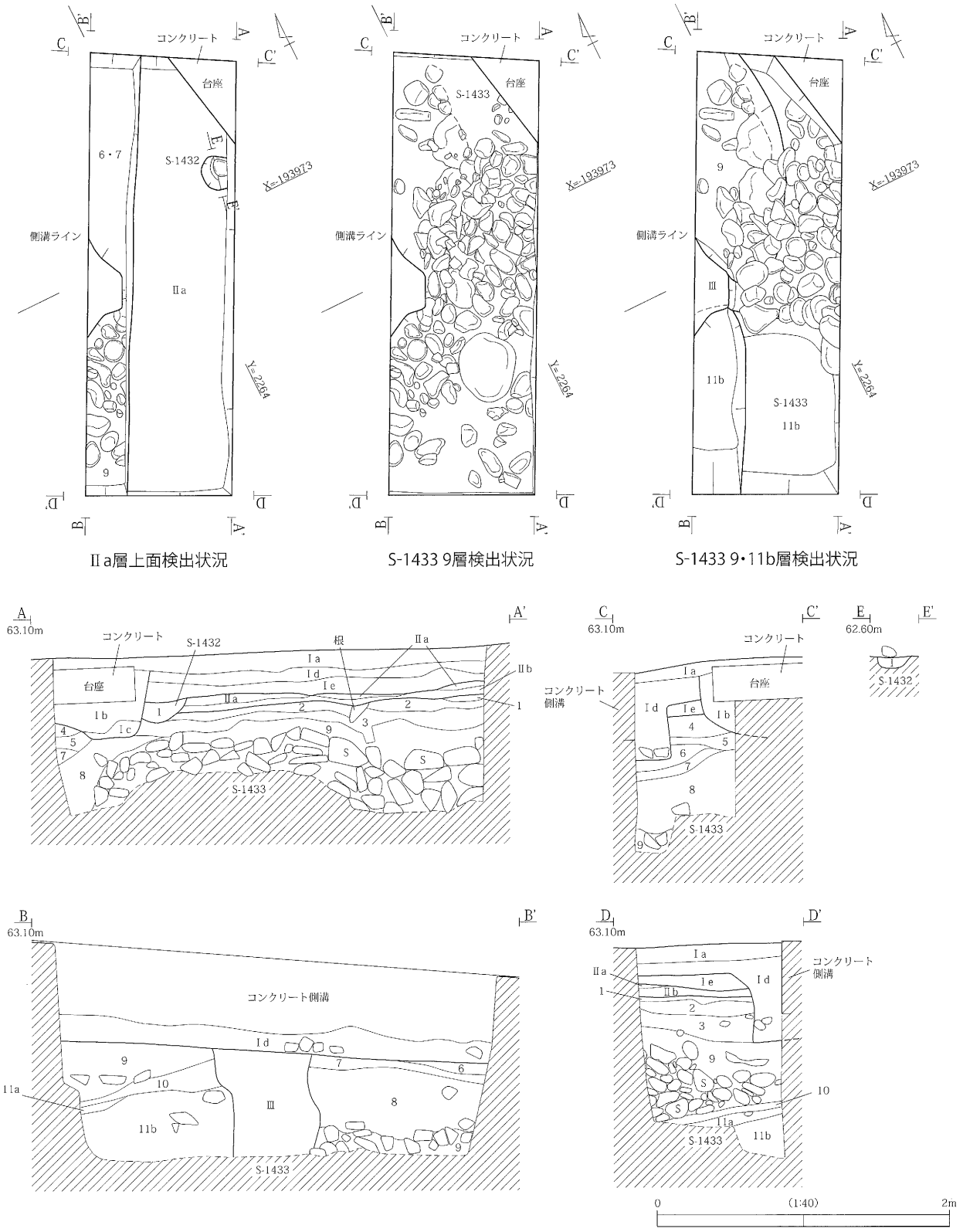
（2）遺構と遺物

S-1432（ピット）　調査区北東側、Ⅱ層上面で検出した。検出した範囲での規模は長軸22cm、短軸18cm、検出面からの深さは14cmである。推定される平面形状は楕円形で断面形状は「U」字状を呈する。埋土は単層で遺物は出土しなかった。

S-1433（溝状遺構）　Ⅱ層直下、調査区全面で検出された。調査区外へ延びるため全体の規模・形状は不明であるが、

検出した範囲での規模は幅 1.3m 以上で、深さは検出面から 110cm 掘り下げたが底面を確認できなかったため不明である。平面形状は調査区西側中央部の側溝底面で確認でき、「く」字状に屈曲する。埋土は 11 層に分層され、４～８層は北側にのみ堆積するため別遺構の埋土の可能性もあるが、明瞭な遺構重複を確認できなかったので同一遺構の埋土とした。遺物は瓦片、陶器片、磁器片、土師器片、大砲点火具の摩擦管が出土している。用途・性格は規模・形状、埋土の堆積状況から溝または暗渠が想定され、時期は出土遺物から近代以降に属すると考えられる。

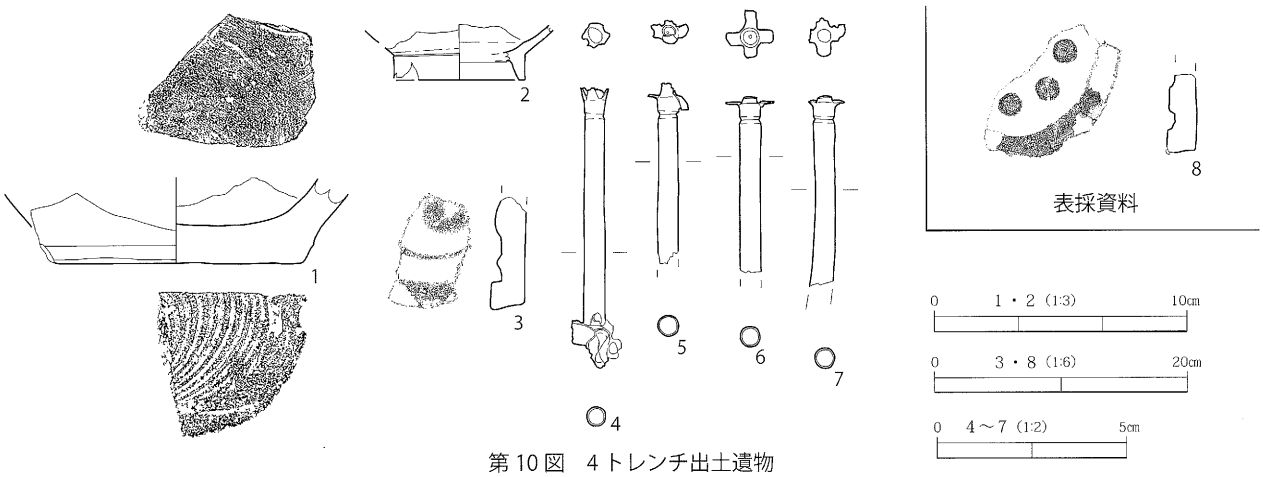
出土遺物　Ⅰ層：瓦片９点、磁器片２点、土師器３点、金属製品２点、Ⅱ層：金属製品１点。



第９図　４トレンチ平・断面図

第６表　４トレンチ土層注記表

遺構	層位	土色		土質	土性		備考
		土色No.	土色		粘性	しまり	
	Ⅰa	10YR2/1	黒色	砂質シルト	なし	あり	表土。径1cm以下の円礫を少量含む。
	Ⅰb	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	なし	径3mm以下の黄褐色土粒を少量含む。
	Ⅰc	10YR5/6	黄褐色	粘土	あり	あり	径3cm以下の円礫、径1cm以下の黒褐色土粒を微量含む。
	Ⅰd	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径3cm以下の円礫、径2cm以下の黒褐色土粒を少量含む。
	Ⅰe	10YR3/1	黒褐色	シルト	ややあり	あり	径1cm以下の円礫を少量、径1cm以下の黄褐色土粒を微量含む。
	Ⅱa	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	あり	盛土層。径1cm以下の円礫を微量含む。
	Ⅱb	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	盛土層。径1cm以下の円礫を少量、径5mm以下の黄褐色土粒を微量含む。
	Ⅲ	10YR5/6	黄褐色	粘土	あり	ややなし	径5mm以下の風化礫を微量含む。
S-1432	1	10YR6/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径5mm以下の風化礫を多量含む。
S-1433	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径5mm以下の灰白色土粒を微量含む。
	2	10YR6/3	にぶい黄橙色	シルト	ややあり	あり	径5mm以下の風化礫をやや多量含む。
	3	10YR5/4	にぶい黄褐色	細砂	なし	なし	径1cm以下の風化礫を微量含む。摩擦管出土。
	4	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径5mm以下の黒褐色土粒を微量含む。
	5	10YR4/4	褐色	粘土	あり	ややなし	径5mm以下の風化礫を微量含む。
	6	10YR6/2	灰黄褐色	細砂	なし	なし	径2cm以下の黄褐色土粒を少量含む。
	7	10YR6/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径1cm以下の黄褐色土粒を微量含む。摩擦管出土。
	8	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	あり	なし	径5cm以下の黄褐色土粒を多量、径1cm以下の風化礫を少量、径10cm大の円礫を微量含む。摩擦管出土。
	9	10YR4/1	褐灰色	礫	なし	なし	礫層。径5cm以下の褐灰色土粒、径5mm以下の炭化物を多量含む。
	10	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土	あり	あり	径1cm以下の褐灰色土粒を微量含む。
	11a	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややなし	径5mm以下の風化礫を多量含む。
	11b	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	なし	径1cm以下の風化礫・炭化物を多量、径5mm以下の黄褐色土粒を少量含む。



第 10 図　４トレンチ出土遺物

第７表　４トレンチ出土遺物観察表

図版番号	種類	登録番号	遺物番号	種別	出土地点		法量(cm・g)				産地	時期	備考	写真図版
					遺構名	層位	口径	器高	底径	重さ				
第10図-1	陶器	I-4	59	擂鉢	S-1433	9	-	(3.4)	(10.2)	(103.7)	岸窯	17C	底部回転糸切り、内面摩滅顕著。	図版17-10
第10図-2	陶器	I-5	85	碗	S-1433	11b	(7.4)	(2.2)	(5.2)	(13.3)	肥前	18C	灰釉。	図版17-11

図版番号	種類	登録番号	遺物番号	文様	出土地点		法量(cm・g)				備考	写真図版
					遺構名	層位	長さ	幅	厚さ	重量		
第10図-3	軒丸瓦	F-3	41	三巴文	S-1433	9	-	(6.2)	2.7	(126)	左巻。瓦当面離れ砂有り。	図版17-16
第10図-8	軒丸瓦	F-5	103	九曜文	-	表採	-	(11.0)	(2.2)	(223.6)	中門跡北側で採取。	図版17-17

図版番号	種類	登録番号	遺物番号	出土地点		法量(mm・g)					備考	写真図版
				遺構名	層位	長さ	幅	厚さ	羽根部幅	重量		
第10図-4	摩擦管	N-9	30	S-1433	3	(74)	6	0.5	(7)	(3.5)		図版17-12
第10図-5	摩擦管	N-11	74	S-1433	7	(48)	6	0.5	(9.5)	(1.3)		図版17-13
第10図-6	摩擦管	N-12	75	S-1433	8	(47)	6	0.5	12	(2.1)		図版17-14
第10図-7	摩擦管	N-7	19	-	撹乱	(51)	6	0.5	(10)	(2.5)		図版17-15

５．５Ａトレンチ（第３・11・12 図、図版 12・13・17）

大手門跡から中門跡の間、標高 57.6 ～ 57.7m に位置する遊歩道に１×３ｍのトレンチを設定した。調査区全面で盛土層が堆積し上面で旧側溝と近・現代の柱穴を２基検出した。出土遺物が少なく、盛土層の時期は特定できなかった。下層の堆積状況を把握するため、南側の盛土層を掘り下げ、地表から約 60cm の地点で地山層を確認した。

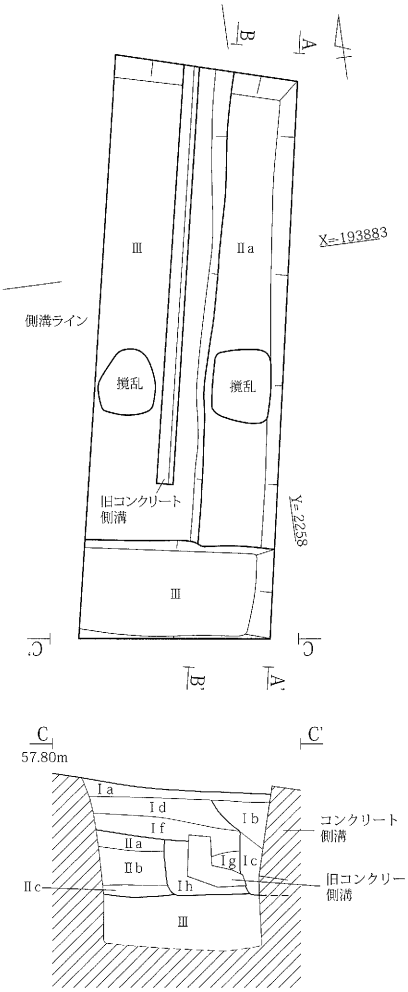
（１）基本層序

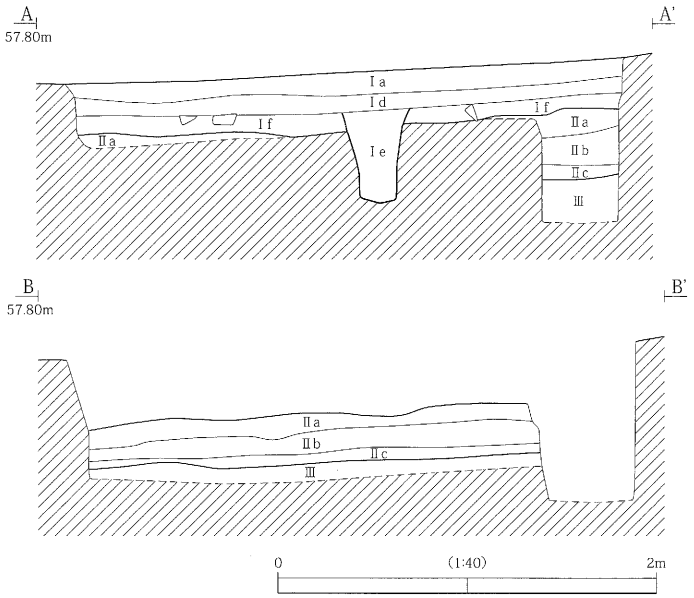
基本層はⅠ層（表土）、Ⅱ層（盛土層）、Ⅲ層（地山層）に大別された。Ⅱ層は３層に細分され、遺物は瓦片、磁器片が僅かに出土した。Ⅲ層はにぶい黄橙色粘土が主体で５ＢトレンチのⅣ層に対応する。

（２）遺構と遺物

遺構　検出されなかった。

出土遺物　Ⅰ層：瓦片２点、陶器片１点、土師器１点、金属製品１点、Ⅱ層：瓦片７点、磁器片３点。





第11図　5Aトレンチ平・断面図

第12図　5Aトレンチ出土遺物

第8表　5Aトレンチ土層注記表

遺構	層位	土色		土質	土性		備考
		土色No.	土色		粘性	しまり	
	Ⅰa	10YR2/1	黒色	砂質シルト	なし	なし	表土。径2cm以下の黄褐色土粒を微量含む。
	Ⅰb	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	あり	あり	側溝掘り方埋土。径5mm以下の風化礫を多量、径5cm以下の円礫・黒褐色土粒を少量含む。
	Ⅰc	10YR2/1	黒色	砂質シルト	なし	なし	側溝掘り方埋土。径2cm以下のにぶい黄褐色土粒をやや多量含む。
	Ⅰd	10YR2/1	黒色	細砂	なし	なし	径2cm以下の黄褐色土粒を微量含む。
	Ⅰe	10YR2/1	黒色	シルト	あり	あり	近・現代の柱穴埋土。
	Ⅰf	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	盛土層。径1cm以下の円礫を多量、径2cm以下の褐灰色土粒をやや多量含む。
	Ⅰg	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	旧側溝埋土。径2cm以下の黄褐色土粒を少量含む。
	Ⅰh	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	旧側溝掘り方埋土。径5mm以下の風化礫を少量含む。
	Ⅱa	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	なし	あり	盛土層。径1cm以下の風化礫を多量含む。
	Ⅱb	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	なし	ややなし	盛土層。径5mm以下の風化礫を微量含む。
	Ⅱc	10YR7/2	にぶい黄橙色	シルト	ややなし	あり	盛土層。径3cm以下の円礫を多量含む。
	Ⅲ	10YR7/2	にぶい黄橙色	粘土	あり	あり	地山層。径5mm以下の酸化した風化礫が部分的に堆積。

第9表　5Aトレンチ出土遺物観察表

図版番号	種類	登録番号	遺物番号	文様	出土地点		法量(cm・g)				備考	写真図版
					遺構名	層位	長さ	幅	厚さ	重量		
第12図-1	軒平瓦	G-1	68	三枚笹文(飛雲)	-	攪乱	-	(5.8)	1.9	(52.3)		図版17-18
第12図-2	瓦	G-2	69	-	-	Ⅱ	(4.5)	(2.8)	1.6	(42)	駒瓦か。	図版17-19
第12図-3	鎹	N-14	235	-	-	Ⅰ	(8.8)	1.0	1.1	(20.5)	釘部欠損。	図版17-20

6．5Bトレンチ（第3・13・14図、図版14～17）

5Aトレンチ東側に位置する遊歩道に1×4mのトレンチを設定した。調査区全面で近代の盛土層が堆積し、その下に時期不明の盛土層、地山層が堆積していた。時期不明の盛土層上面で溝跡1条、地山層上面で土坑2基、ピット1基を検出した。

（1）基本層序

基本層はⅠ層（表土）、Ⅱ層（近代の盛土層）、Ⅲ層（時期不明の盛土層）、Ⅳ層（地山層）に大別された。Ⅱ層は6層に細分され、遺物は瓦片、磁器片などが出土した。Ⅲ層は3層に細分され、遺物は瓦片が出土した。

（2）遺構と遺物

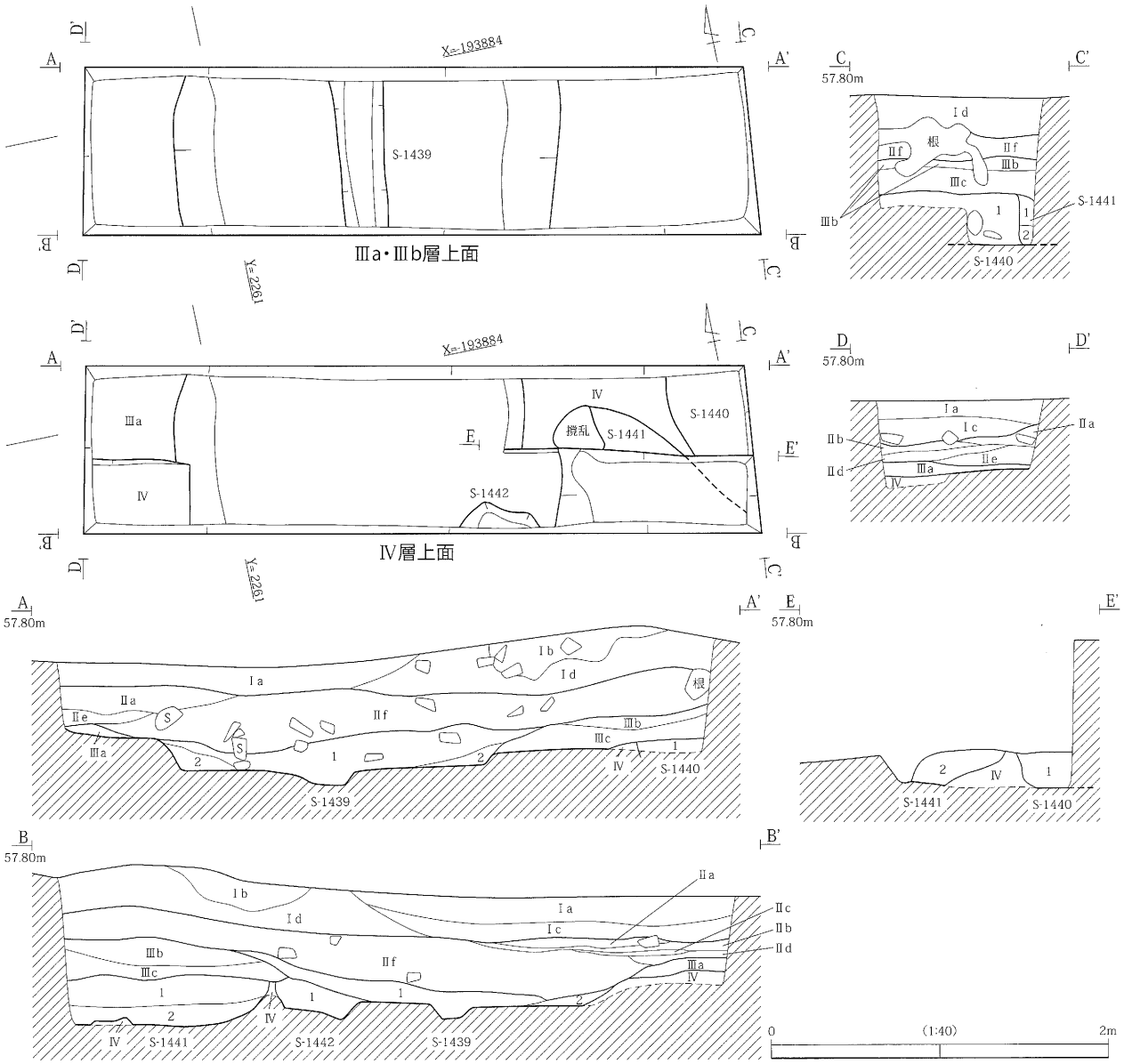
S-1439（溝跡） 調査区中央、Ⅲ層上面で検出した。S-1442を切る。調査区外へ延びるため、全体の規模・形状は不明である。主軸方位はN-11°-Eで直線状に延びる。検出した範囲での規模は幅約220cm、深さ約40cm、断面形状は逆台形を呈する。底面施設として幅12～16cm、深さ約10cmの溝を検出した。溝跡の時期は不明であるが、近代の盛土で埋められていることから当該期に廃絶されたと考えられる。

S-1440（土坑） 調査区東側、Ⅳ層上面で検出した。S-1441に切られる。検出した範囲での規模は長軸48cm、短軸44cmで検出面からの深さは23cmである。断面形状は「U」字状を呈する。埋土は単層で遺物は出土しなかった。

S-1441（土坑） 調査区東側、Ⅳ層上面で検出した。S-1440を切る。検出した範囲での規模は長軸114cm、短軸76cmで検出面からの深さは30cmである。断面形状は皿状を呈する。埋土は2層で遺物は出土しなかった。

S-1442（ピット） 調査区東側、Ⅳ層上面で検出した。S-1439に切られる。検出した範囲での規模は長軸28cm、短軸16cmで検出面からの深さは32cmである。推定される平面形状は楕円形で断面形状は逆台形を呈する。埋土は単層で遺物は出土しなかった。

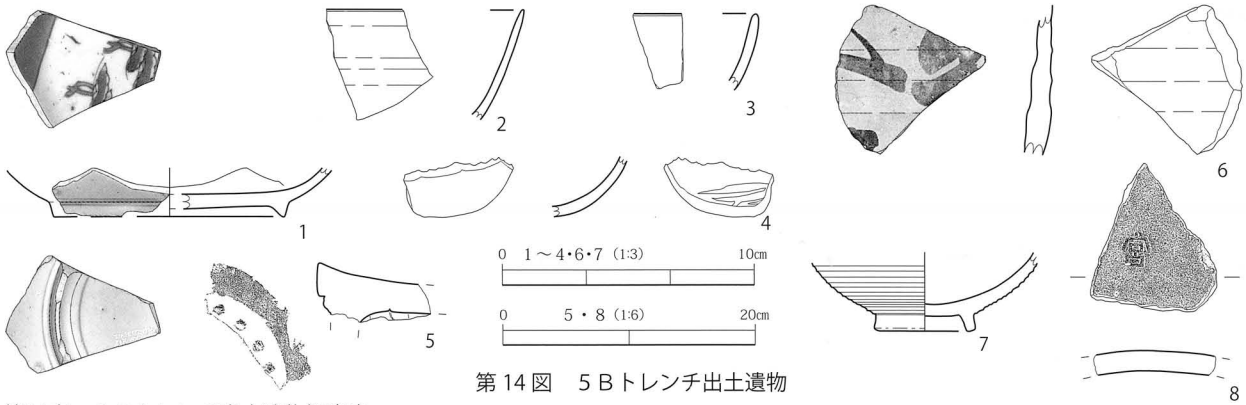
出土遺物 Ⅰ層：瓦片2点、陶器片1点、磁器片1点、金属製品1点、Ⅱ層：瓦片116点、陶器片9点、磁器片3点、土師器片5点、金属製品8点、Ⅲ層：瓦片1点。



第13図 5Bトレンチ平・断面図

第10表　５Ｂトレンチ土層注記表

遺構	層位	土色		土質	土性		備考
		土色№	土色		粘性	しまり	
	Ⅰa	10YR2/2	黒褐色	シルト	なし	ややあり	表土。径2cm以下の円礫を微量含む。
	Ⅰb	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	表土。径15cm大の礫を多量、径5mm以下の黄褐色土粒を少量含む。
	Ⅰc	10YR2/1	黒色	砂質シルト	なし	なし	径3cm以下の円礫を少量含む。
	Ⅰd	10YR2/1	黒色	砂質シルト	なし	なし	表土。径2cm以下の砕石を多量含む。
	Ⅱa	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややなし	なし	近代の盛土層。径5cm大の円礫を多量含む。
	Ⅱb	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	近代の盛土層。径2cm以下の風化礫を多量含む。
	Ⅱc	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	近代の盛土層。径1mm以下の黄褐色土粒を微量含む。
	Ⅱd	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	近代の盛土層。径2cm以下の円礫を微量含む。
	Ⅱe	10YR6/4	にぶい黄橙色	砂質シルト	なし	なし	近代の盛土層。粗砂を多量含む。
	Ⅱf	10YR4/2	灰黄褐色	粘土	あり	あり	近代の盛土層。径3cm以下の黄褐色土粒を多量、径10cm以下の礫を少量含む。レンガ混入。
	Ⅲa	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	なし	ややなし	盛土層。径5mm以下の風化礫を微量含む。
	Ⅲb	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	なし	盛土層。径5mm以下の風化礫・灰白色土粒を微量含む。
	Ⅲc	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	なし	あり	盛土層。径5cm以下の円礫を微量含む。
	Ⅳ	10YR7/2	にぶい黄橙色	粘土	あり	あり	地山層。径5mm以下の酸化した風化礫が部分的に堆積。
S-1439	1	10YR4/1	褐灰色	粘土	あり	あり	径5cm以下の円礫を少量、径5mm以下の風化礫を微量含む。レンガ混入。
	2	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト	ややあり	なし	径5mm以下の黄褐色土粒を少量含む。
S-1440	1	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	あり	なし	径10cm以下の円礫を多量含む。
S-1441	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	あり	ややなし	径1cm以下の灰白色土粒を少量含む。
	2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	あり	なし	径1cm以下の灰白色土粒をやや多量、径5cm以下の礫を少量含む。
S-1442	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	径3mm以下の灰白色土粒をやや多量含む。



第14図　５Ｂトレンチ出土遺物

第11表　５Ｂトレンチ出土遺物観察表

図版番号	種類	登録番号	遺物番号	種別	出土地点		法量(cm・g)				産地	時期	備考	写真図版
					遺構名	層位	口径	器高	底径	重さ				
第14図-1	磁器	J-14	173	染付皿	-	Ⅱ	-	(2.0)	(9.0)	(18.0)	肥前	18C	松文皿。	図版17-21
第14図-2	陶器	I-13	198	碗	S-1439	1	-	(4.4)	-	(9.1)	大堀相馬	18C後半	白濁釉。	図版17-22
第14図-3	陶器	I-14	198	碗	S-1439	1	-	(3.0)	-	(4.1)	大堀相馬	18C	灰釉。	図版17-23
第14図-4	陶器	I-10	171	色絵平碗	S-1439	1	-	(2.4)	-	(9.4)	京・信楽	18C	上絵付剥落。	図版17-24
第14図-6	陶器	I-7	124	徳利	-	Ⅰ	-	(5.9)	-	(28.7)	美濃	近代	高田徳利。	図版17-26
第14図-7	陶器	I-8	127	掛分碗	-	Ⅱ	-	(3.2)	(3.6)	(40.5)	大堀相馬	18C	外面掛け分け。灰釉・鉄釉。	図版17-27

図版番号	種類	登録番号	遺物番号	文様	出土地点		法量(cm・g)				備考	写真図版
					遺構名	層位	長さ	幅	厚さ	重量		
第14図-5	軒丸瓦	F-4	198	珠文三巴文	S-1439	1	(8.7)	(10.4)	2.3	(494.6)	コビキB、布目痕有り。	図版17-25
第14図-8	桟瓦	G-3	199	-	S-1439	1	(11.2)	(9.7)	1.6	(169.7)	刻印「宮」	図版17-28

Ⅳ　まとめ

（１）今回の調査では近世の溝状遺構１条、ピット４基、近代の溝状遺構１条、溝跡１条、ピット２基、時期不明の溝跡１条、土坑２基、ピット１基を検出したが、登城路に関連する明確な遺構は検出できなかった。

（２）遺物は瓦片、磁器片、陶器片、土師器、金属製品などがコンテナ箱５箱分出土した。

（３）１・２・５Ａトレンチでは盛土層を検出したが、遺物が出土しなかったため、時期は特定できなかった。

（４）３Ａ・３Ｂトレンチでは近世の整地層を検出し、上面で溝状遺構１条、ピット３基を検出した。調査状況から、周辺には近世の整地層が残存し、当該期の遺構が存在する可能性が高いと考えられる。

（５）４トレンチでは近代以降の溝状遺構を１条検出した。近代の文献には詰ノ門付近から八木山へ道路を開通させる際に、暗渠を大深沢へ開口したという記事がある。調査区は文献記事の場所とは離れているため、直接文献に関連する遺構ではないが、周辺では近代以降に多くの土木工事が行われていることが想定され、本遺構も近代以降の暗渠、溝などの可能性が考えられる。

（６）５Ｂトレンチでは溝跡１条、土坑２基、ピット１基を検出した。溝跡の時期は不明だが、近代に廃絶されたと考えられる。土坑及びピットは時期不明の盛土層から掘り込まれており、遺物が出土しなかったことから、帰属時期を特定できなかった。

図版１　１トレンチ全景（北より）

図版２　１トレンチ南壁断面（北より）

図版３　２トレンチ全景（北より）

図版４　２トレンチ南壁断面（北より）

図版５　３Ａトレンチ全景（北東より）

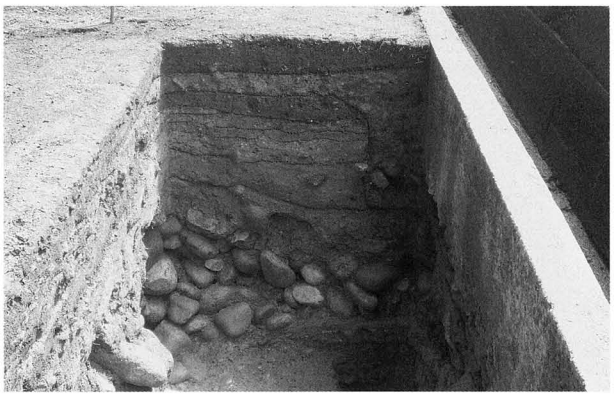
図版６　３Ａトレンチ南壁断面（北東より）

図版７　３Ｂトレンチ（３Ａトレンチ一部含む）全景（南西より）

図版８　３Ｂトレンチ（３Ａトレンチ一部含む）南壁断面（北東より）

図版9　3Bトレンチ（3Aトレンチ一部含む）S-1434断面（南西より）

図版10　4トレンチ　S-1433全景（北東より）

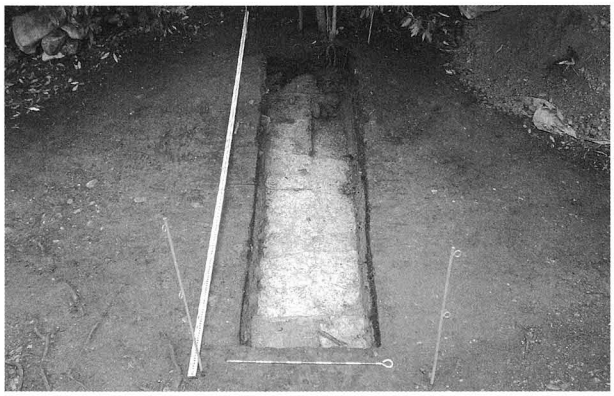


図版11　4トレンチ南壁断面（北東より）

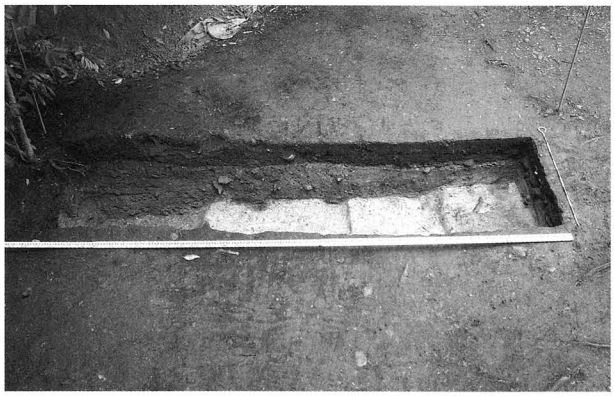
図版12　5Aトレンチ全景（北より）

図版13　5Aトレンチ南壁断面（北より）

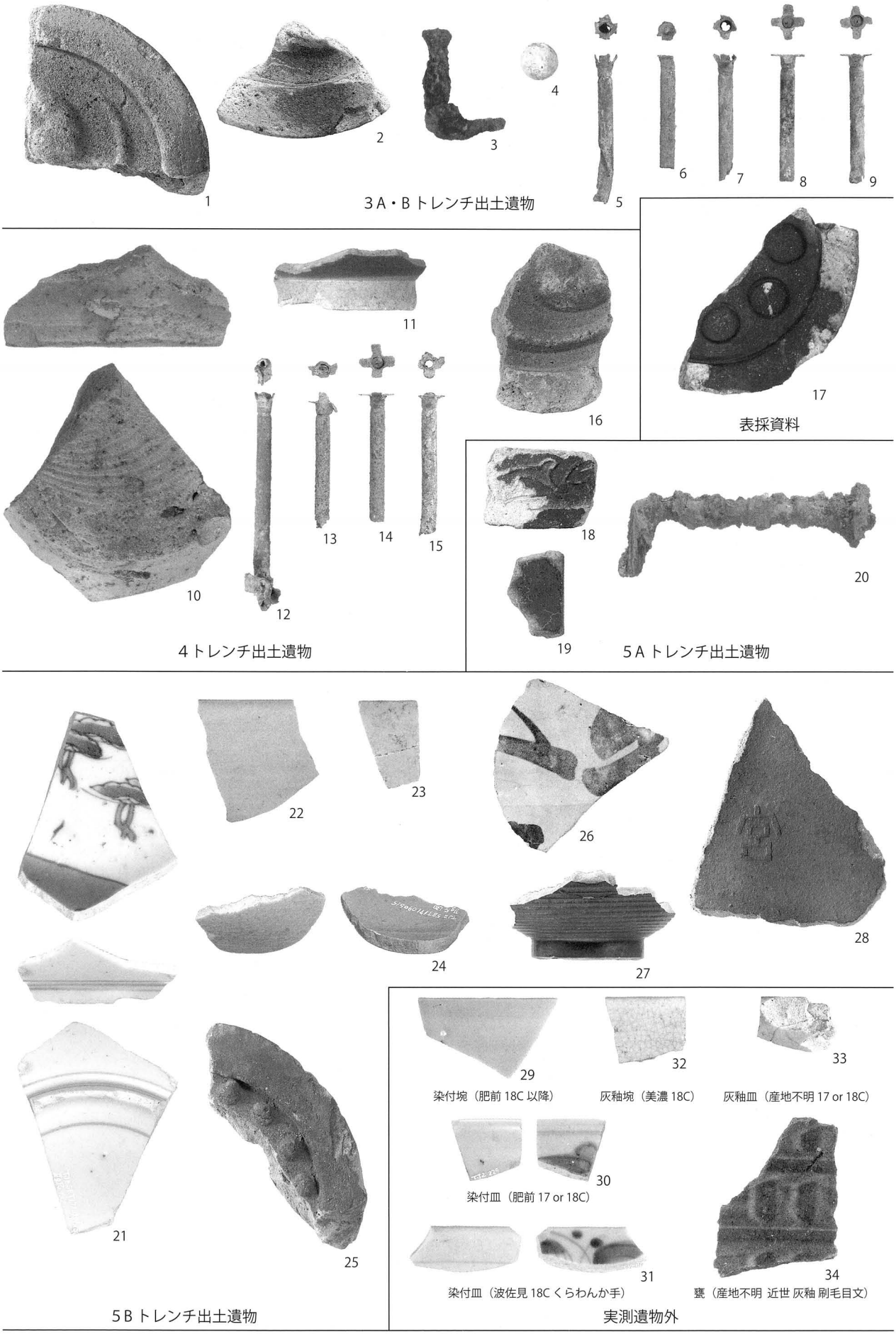
図版14　5Bトレンチ　S-1439完掘（北より）



図版15　5Bトレンチ全景（西より）



図版16　5Bトレンチ南壁断面（北より）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
3A・Bトレンチ出土遺物
10
11
12
13
14
15
16
4トレンチ出土遺物
17
表採資料
18
19
20
5Aトレンチ出土遺物
21
22
23
24
25
26
27
28
5Bトレンチ出土遺物
29
染付埦（肥前 18C 以降）
32
灰釉埦（美濃 18C）
33
灰釉皿（産地不明 17 or 18C）
30
染付皿（肥前 17 or 18C）
31
染付皿（波佐見 18C くらわんか手）
34
甕（産地不明 近世 灰釉 刷毛目文）
実測遺物外

図版 17　出土遺物写真

報 告 書 抄 録

ふりがな	せんだいじょうあと　とじょうろ　だいにじちょうさ
書名	仙台城跡　登城路　第２次調査
副書名	平成21年度　調査報告書
巻次	2
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第354集
編著者名	佐藤洋・福井流星
編集機関	仙台市教育委員会
所在地	〒980-8671　仙台市青葉区国分町3丁目7-1　TEL022-214-8544

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	調査地点	コード 市町村	コード 遺跡番号	調査期間	調査面積	調査原因
			4100	1033			
せんだいじょうあと 仙台城跡	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 あおばくかわうちちない 青葉区川内地内	登城路跡	北緯 38° 15′ 00″	東経 140° 51′ 35″	2009.5.18 ～ 2009.6.19	25㎡	園路整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
仙台城跡	城館跡	江戸時代	溝跡 土坑 ピット	瓦 金属製品	中門跡付近で近世の整地層、溝状遺構を検出した。調査状況から周辺には近世の遺構が存在する可能性が高い。

仙台市文化財調査報告書第354集
仙台城跡　登城路第２次調査
－平成21年度　調査報告書－
2009年9月
発行　仙台市教育委員会
〒980-8671　仙台市青葉区国分町3丁目7-1
TEL022-214-8544
印刷　株式会社　仙台紙工印刷
〒983-0036　仙台市宮城野区苦竹3丁目1-14
TEL022-231-2245